

スキンケアわかりやすいお話

スキンケアで少しでも乾燥肌と敏感肌を改善し、うるおいのある肌に近づけるには、2つの重要要素があります。①肌自身のうるおうとする力を引き出すことと、②「その力」を引き出すことを早めるために、肌に油分や水分を同時に補給し、うるおいを与えることです。

① 肌自身のうるおうとする力を引き出すこと：

副交感神経の働きを強め、皮脂腺からの皮脂の分泌を促進。汗腺から汗の分泌を促進。血流を改善し、表皮細胞の代謝を活性化。副交感神経の働きを強める精油成分が含有しています。

② 「その力」を引き出すことを早めるために、肌に油分や水分を同時に補給し、うるおいを与えること：

「その力」を引き出すことを早めるための「うるおいを与える」方法スキンケアが、海の森・オイル・化粧水・クリームや乳液では違います。

オイルは油分ですから水分が補えませんので、肌表面上、皮脂の部分での保湿しかできません。空気中の酸素による肌の酸化（過酸化脂質）の問題や紫外線の影響（活性酸素→過酸化脂質）を受けやすいという欠点があります。

化粧水は水分を補えますが、肌表面を被うことのできる油分が全くありませんので、水分が保てず蒸発してしまいますから、別に油分を補う必要があります。

クリームや乳液は、油分も水分も補えますが、乳化剤（石油合成界面活性剤）などが皮脂膜の皮脂や角質層の細胞間脂質タイプ1のセラミドを損失・破壊する問題があります。

海の森には肌のタイプ1のセラミド（バリア機能）を破壊しない界面活性剤（不飽和脂肪酸）が含有され、そのため水と油がなじんでいます。肌に油分や水分を同時に補給することができ、海の森1本で肌にうるおいを与えています。

海の森に含有するセラミド&化粧水で配合されるセラミド

セラミドには天然・天然型と類似型の3種類があり、天然のセラミドと同じ働きを持つものが開発されています。角質水分保持機能に関し、疑似セラミドは天然セラミドや天然型セラミド（化粧品表示名：セラミド1、セラミド2）より劣りますが、使用感がよいということで、高級化粧水（30,000円から100,000円）に採用されるケースがあります。

天然・天然型と類似型の3種類のセラミドは、いずれも肌では細胞間脂質（天然セラミド：タイプ1のセラミド）の中で遊離脂肪酸やコレステロールなどの成分と一緒に角質層の中でラメラ液晶構造を形成し、角質水分量を維持する成分として重要な成分です。

海の森には、天然のセラミド（不飽和脂肪酸）がビタミンEと一緒に植物油滴に含有されています。

スキンケアわかりやすいお話-2

なぜ、海の森は肌に油分や水分を同時に補給し、うるおいを与えることができるのですか。
詳しく教えてください：

それは、植物油成分が精製水の中に均一に溶け込んでいる乳化状態の仕方（製法）にあります。「海の森」原液は、植物油の中に水分や有効成分（タミン E と一緒に不飽和脂肪酸など）が分散しているコクのある油中水型の乳化液です。コクのある海の森原液（乳化液）を精製水で希釈すると、水分中に海の森原液が分散（乳化）し、さっぱりした使用感なのにしっとりする水中油型の乳化水溶液（ダブルエマルジョン）になります。海の森 1 本で水分・油分が少なくなった肌に水分と油分（うるおい）を与え、しかも安定して有効成分を肌内部に浸透させることができます。

含有された不飽和脂肪酸は皮脂成分・細胞間脂質（タイプ 1 のセラミド）成分と同じ天然のセラミドで、細胞間脂質（天然セラミド：タイプ 1 のセラミド）の中で遊離脂肪酸やコレステロールなどの成分と一緒に角質層の中でラメラ液晶構造を形成し、角質水分量を維持する成分として貴重で重要な成分です。また、乳化作用や菌の繁殖を抑制する効果もあります。植物油滴の中にはアミノ酸も含有し、水溶液がアミノ酸結合水で、長時間の水分補給が可能です。さらに、水分と一緒に角質層に浸透したミネラル成分は、皮膚内部のメラニンや過酸化脂質など有害物質を吸着し、アカと一緒に排出されます。

乾燥肌や敏感肌は油分が少なく水分が蒸発しやすい肌状態で、ほこり、細菌、ハウスダストなどの刺激物質が奥まで侵入、赤み、かゆみなどがしやすい肌になっています。乾燥肌や敏感肌は紫外線にも弱くなっています。肌に水分と同時に油分を与え、紫外線・乾燥や敏感からお肌を守ってください。刺激物質が侵入し難くなりますので、赤みやかゆみを軽減することもできます。ぜひ一度、海の森のスキンケアをお試しください。

スキンケアわかりやすいお話-3

「使い始めはよかった」海の森を使い続けると、思ったほどの改善が見られない、なぜ海の森に物足りなさを感じるようになるのでしょうか。

初めて海の森（水中油型の乳化水溶液）を使ったとき、「使い始めはよかった」ということは、海の森が皮膚表面に水中油型の薄い膜（水と油）をつくり、刺激や水分蒸散を防ぎ、即効的に滑らかさをつくるからです。また、植物油の中に含有された乳化作用のある不飽和脂肪酸（天然セラミド）が角質層最上位の細胞間脂質（タイプ1のセラミド）に浸透しても、角質層のラメラ液晶構造を破壊することなく、逆に肌にうるおいを与えるからです。

角質層が角質水分保持機能として働くために、角質層最上位の細胞間脂質の主成分が不飽和脂肪酸（タイプ1のセラミド）になっています。不飽和脂肪酸は、角質細胞間脂質のラメラ液晶構造（保湿構造）を安定化させるための成分で、角質水分保持機能を維持する成分として極めて重要です。もし、角質層最上位の細胞間脂質の主成分である不飽和脂肪酸（タイプ1のセラミド）の代りに飽和脂肪酸が浸透すると、角質細胞間脂質の保湿構造が崩れ水分の蒸散量が増加し、肌は荒れてカサカサになります。また、刺激物が簡単に角質層下に入り、刺激物による炎症が多くなります。

また、海の森の油分は石鹸など使用しなくても水洗いなどで簡単に落とせ、肌のうるおい成分の損失も少なく、肌のうるおいに悪影響を与えません。さらに、あまり理解されていませんが、海の森の低刺激(精油成分)は肌ストレスを和らげ、肌自身でうるおうとする力の回復を図っているのです。

「その物足りなさ」と言うのは、保湿化粧品のもっている即効的なうるおい感に慣れ過ぎた結果、肌自身でうるおうとする力の改善が途中で、しかも、海の森の持つ「それなりの即効性：うるおい」に満足できていないからです。肌自身でうるおうとする力を取り戻すと、海の森の持つ「それなりの即効性」に自然と満足（慣れる）できるようになります。

肌ストレスを和らげ、肌自身でうるおうとする力の回復を図ること。同時に、皮膚表面に油中水型の薄い膜（水と油）をつくり、うるおいが少なくなった肌にうるおい（水分と油分）を与え、とにかく刺激や水分蒸散から肌を守ることです。肌のうるおいをなくすケアや行為はできるだけ控えてください。ゴシゴシ洗顔、クリームを強くすりこむ、行き過ぎたパッティング、行き過ぎたマッサージやパック、ファンデーションを厚く塗るなど、皮脂膜や角質層を傷つける行為は、肌のうるおいをなくします。また、界面活性剤(飽和脂肪酸)の多量や長期間の使用も肌のうるおいをなくします。